



令和5年度第2回川崎地域地域医療構想調整会議 資料9

令和5年度第1回地域医療構想調整会議 結果概要について

本資料では、令和5年度第1回地域医療構想調整会議の結果概要について、ご報告いたします。

1 開催状況及び主な議題

2 いただいた主なご意見

※意見については事務局の責任において取りまとめ

1 開催状況及び主な議題

○ 開催状況

横浜	川崎	相模原	横須賀・三浦
8/8	8/28	8/1	8/23
湘南東部	湘南西部	県央	県西
8/29	8/30	8/23	8/22

○ 主な議題

- ・ 県保健医療計画の改定について
- ・ 令和5年度病床整備事前協議について（横浜、相模原、横須賀・三浦、県央）
- ・ 紹介受診重点医療機関について
- ・ 公立病院経営強化プランの策定について（川崎、湘南東部、湘南西部、県央）
- ・ 2025プランの更新について（横浜、川崎、相模原、湘南西部）
- ・ その他、地域個別議題及び報告事項など

2 いただいた主なご意見（協議事項）

【県保健医療計画の改定について】

資料7「第8次医療計画における基準病床数の検討について」を御参照ください。

2 いただいた主なご意見（協議事項）

【病床整備事前協議について（横浜、相模原、横須賀・三浦、県央）】

- 昨今の建築費の高騰、医療従事者の確保に向けた課題を踏まえると増床は困難
- 新たに病床を整備するよりも休棟中の病床の精査が先ではないか
- 昨年度に81床を配分したが、これにより地域にどのような影響を与えるのかの確認も必要
- 8次計画に向けて基準病床数を見直すことから、その中で相模原地域の病床の検討を行うべき
- 中小病院は人材が不足しており、休床病床の再稼働もできない状況
- 休床病床について、何年も稼働できていないなら返上することも考える必要がある。この地域は回復期が明らかに足らず他地域に流出しているため、地域完結のために回復期の整備を検討すべき。
- 不確定であるが、手上げを希望したいという要望が地区病院協会にあった。
- 手上げの希望があれば、公募する方向で良いのではないか

2 いただいた主なご意見（協議事項）

【紹介受診重点医療機関について】

- コロナ禍という特殊な時期において、限られた期間の報告数値で協議することは厳しい（川崎）
- 水準項目である「紹介率」「逆紹介率」について、1 か月間の患者数から算出するのではなく、基準項目と同様に1年間の患者数により再算出し、その結果で紹介受診重点医療機関としてもらいたい。（川崎）
- →意見を受けて、再調査を実施して、書面協議を実施した

2 いただいた主なご意見（協議事項）

【病床整備事前協議について（横浜、相模原、横須賀・三浦、県央）】

- 人口増加によって受け皿が全部病院になった場合は大きな不足を招くと思うが、施設とか在宅で
- 何とか診られる患者が一定数いると思う。
- 床数を見直すとしても、今回は非常に数が少ない。もうちょっと数がまとまってからのほうがよい
- 地域で病床の募集が必要だということであれば、基準病床数の見直しというよりはまずは病床の公募をするという段階を先に入れて、そこで例えば手挙げが多数あれば、さらなる基準病床数を上げるというやり方もあるのではないか。
- 横須賀三浦地域全体で言うと、回復期間の患者さんは、この地域で60%台しか見れていない。
- 在院日数を短縮して今まで対応してきたが、地域に回復期の病床がないと、そこはいずれス tackする。地域の急性期のニーズにもこたえられなくなるのではないか。

2 いただいた主なご意見（協議事項）

【公立病院経営強化プランの策定について（川崎、湘南東部、湘南西部、県央）】

- 公立病院の役割は、地域ごとに異なっているので、その地域にあった機能を担っていくようにするべき。（川崎）
- 国から示された考え方では、医師・看護師の確保に関する事項をプランに盛り込むこととされている。医師の働き方改革等により医療従事者の確保が厳しくなる中、公立2病院の人材確保に関する事項についてしっかりと記載をお願いしたい。（湘南東部）

【2025プランの更新について（横浜、川崎、相模原、湘南西部）】

⇒ いずれの地域でも、特に意見なくプランの更新を了承

2 いただいた主なご意見（協議事項）

【公立2病院における基金を活用した病床機能の分化・連携事業について（県西個別議題）】

○ 事務局から、小田原市立病院および県立足柄上病院の連携協定に基づく再整備の取組事業について説明

- 小田原市立病院と県立足柄上病院の2病院だけが主役になって頑張っているかのような印象を受けるが、この地域には、他にも救急を頑張っている民間病院があり、そうした病院にも目を向ける必要があるのではないかと。
- これまでの基金活用実績を見ると、公立病院の単なる建替えに基金が活用されているという印象を受ける。今回の連携協定に基づく取組を事業メニュー化して他の地域でも展開することを検討すると事務局から説明があったが、基金は公立病院だけのものではないため、民間病院を含め、みんなが納得する活用方法を検討していただきたい。

⇒方向性について概ね理解を得たものの、以下の意見が出されたことから、今後、周辺の民間医療機関も巻き込んださらなる取組の検討が必要

2 いただいた主なご意見（協議事項）

【地域医療支援病院の名称使用承認について（湘南西部個別議題）】

○ 秦野赤十字病院から地域医療支援病院と称することへの承認申請書が提出されたこと、医療審議会での審議に向け、地域医療構想調整会議で協議を行うことについて説明

⇒地域医療支援病院としての要件を満たしていることから、委員から特段の意見なく了承

2 いただいた主なご意見（報告事項）

【地域医療介護総合確保基金の活用状況について（相模原）】

- 相模原地域ではあまり基金が活用されていない
- 病院から在宅へのつなぎに苦勞している。これにより平均在院日数が延びている。基金を活用して何かできないか。
- 基金の医療分と介護分のすみ分けがわかりにくい
- コロナで行った下り搬送の仕組みを、基金を活用しながらできないか検討をお願いしたい

【令和4年度病床機能報告結果（速報値）について（横浜）】

- ・ 今回の資料のように、現在の病床数と必要病床数とを比較されると、あたかも神奈川県は病床が足りないといった誤解を招く。このような誤解を招く資料の整理や説明は見直していただきたい

2 いただいた主なご意見（報告事項）

【医師の働き方改革について（川崎）】

- 供給医療の現場病院をはじめ休日急患診療所でも、この動きは注目している。
- 開業医でも、非常勤の先生方にお手伝いを願うところがよくあり、しっかりアナウンスをしてもらいたい。

【その他】

○横須賀アライアンスの取組

- ・ 神奈川県病院協会の長堀委員より、横須賀共済病院が進めている、横須賀アライアンスの取組として、EHR及びPHRの実施に向けた説明及び地域関係者への協力依頼がなされ、参加者からは概ね賛同の意見があった。

説明は以上です。